

7-8 鳥取県のでんかん地域診療連携事業

鳥取大学医学部地域・精神看護学・鳥取県てんかん診療医療連携協議会委員長
吉岡 伸一

まとめ

- 8 地域拠点施設の中で唯一てんかんセンターのない拠点として地域診療連携事業を行った。
- ・鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業ホームページ（てんかん患者が適切な治療を受けられる地域医療ネットワーク）を開設した。
- ・県内のでんかん診療を担う一次・二次の診療機関を調査してその情報 HP 上に掲載し、だれでも閲覧可能になった。
- ・てんかん患者受け入れ入所施設を調査し、HP 上に掲載し、誰もが利用可能にした。
- ・相談事業が少しずつ浸透した。
- ・行政との連携が深まった

1. 概要

鳥取県にはてんかんセンターはなく、てんかんセンターがない拠点病院からのスタートであったため、地域の診療機関との連携を模索しながら、てんかん診療の1次、2次医療機関を明らかにし、また、ホームページ、リーフレットを作成して、患者及び医療機関のてんかん診療への相談とアクセスの改善を図った。

- ・鳥取県てんかん地域診療連携体制整備事業ホームページを開設
- ・てんかん診療を担う一次・二次の診療機関を調査してその情報 HP 上に掲載。その上で、てんかん二次診療施設のマップを作成。二次診療機関病院と診療所（医院）・機関病院との連携を調査。
- ・てんかん患者受け入れ入所施設を調査し、HP 上に掲載
- ・てんかん事業リーフレットを作成、配布
- ・医療者向け研修と市民公開講座を行った。
- ・相談窓口を開設

2. てんかん地域診療連携事業

1) てんかん地域診療連携体制整備事業ホームページ開設

鳥取県での本事業の紹介と、調査したてんかん診療を担う一次・二次の診療機関、てんかん患者受け入れ入所施設を掲載誌、患者及び医療機関のてんかん診療への相談とアクセスの改善をはかった。

2) てんかん診療を担う一次・二次の診療機関を調査とてんかん二次診療施設のマップの作成

鳥取県内の医療機関に対し、調査票を送付し、てんかん診療可能な医療機関と二次診療機関を調査した。

その結果、47の医療機関がてんかん受け入れ可能であることが判明した。

その中で、13のてんかん二次診療施設と、担当部署、てんかん専門医の数を明らかにし、てんかん二次診療施設のマップを作成し、HPに掲載した。

てんかん患者に対する医療機関情報

医療機関名	住所		診療科名	予約制の有無 診療日	配置されている職種
	電話	ファックス			

1) 可能な診療内容(○:自院で可能 ◎:他院との連携で可能)

対象年齢				対象とする病態				可能な検査					
乳幼児	児童思春期	成人期	年齢を問わない	てんかん発作のみ	精神症状を伴う	重複障がい	難治性てんかん	その他	一般脳波	CT	MRI	血中濃度測定	その他

可能な治療								
薬物治療	血中濃度測定による薬物調整	ACTH	ステロイド	外科療法	電撃療法	迷走神経刺激治療	他医療機関と連携・調整しながら治療	その他

2) 心理・社会的なかわりについて(○:自院で可能 ◎:他院との連携で可能)

対象とする年齢				対象とする病態				
乳幼児	児童思春期	成人期	年齢を問わない	家庭生活困難	就学困難	就労困難	社会生活困難	その他

専門技術				
心理職によるカウンセリング	福祉的サービスの利用支援	介護的技術指導	生活訓練的技術指導	その他

3) 特記事項

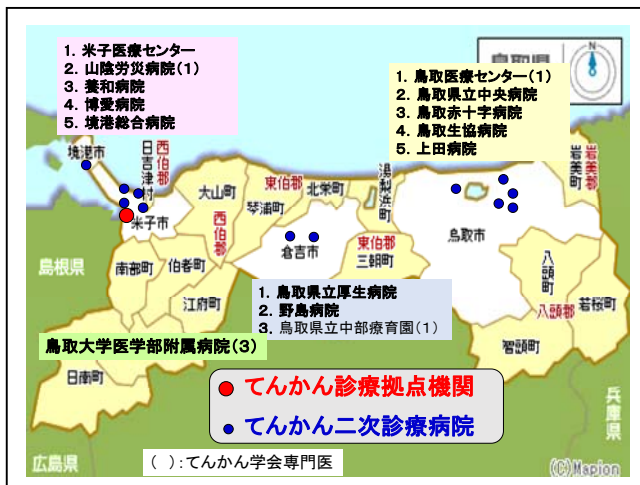
--

また、二次診療機関病院と診療所(医院)・機関病院との連携を調査した。連携での受け入れは比較的に特定の病院に集中していた。

鳥取県内てんかん患者診療医療機関

医療機関名	診療科名	医療機関名	診療科名
鳥取医療センター	神経内科・神経小児科・精神科	瀬田小児科医院	小児科
鳥取県立中央病院	精神科・小児科・神経内科・神経外科・救急科	下田神経内科クリニック	神経内科・内科
鳥取市立病院	神経外科・小児科	北室内科医院	内科・呼吸器内科
渡辺病院	神経内科	石丸こどもクリニック	小児科・アレルギー科
鳥取生協病院	神経外科	美和あすなろ医務室	内科
上田病院	精神科	特別養護老人ホーム若葉台医療室	内科
尾崎病院	神経内科	森医院	内科・小児科
岩美病院	内科	森医院中河原分院	内科・小児科
はまゆう診療所	内科	加藤医院	内科・循環器内科・消化器内科・小児科・外科・整形外科
穴戸医院	内科・消化器科・循環器科・外科・リハビリテーション科	井上医院	内科・腎臓科・外科・小児科
よしだ内科医院	内科・神経内科	井上医院後油出張診療所	内科・腎臓科・外科・小児科
はしがち在宅クリニック	内科	岸本内科医院	神経内科・内科

医療機関名	診療科名	医療機関名	診療科名
県立厚生病院	精神科・神経外科・神経小児科・神経内科	安達医院	内科
清水病院	神経内科	松田内科クリニック	内科・神経内科・小児科
岡本小児科医院	小児科	おのおの小児科内科医院	小児科内科
新田内科クリニック	内科・神経内科	弓場医院	内科・小児科
宮石クリニック	内科・神経内科	さくま内科・神経内科クリニック	神経内科
鳥大附属病院	神経外科・精神科・神経小児科	境港総合病院	神経内科・精神科・小児科
高島病院	神経外科	岡空小児科医院	小児科・アレルギー科
山陰労災病院	神経内科・小児科・神経外科	しらいし内科クリニック	内科・皮膚科
博愛病院	神経小児科・神経内科	法勝寺内科クリニック	内科
米子医療センター	小児科	小谷医院	内科
真誠会セントラルクリニック	神経内科	日野病院	神経内科・心療内科
藤井外科医院	外科		



二次診療機関病院と診療所(医院)・機関病院との連携

二次診療病院	診療所または開業医→二次病院	二次病院→大学または労災脳外	問題点や希望
鳥取県立厚生病院(脳神経小児科)			件数が多すぎて集計できない為
清水病院(神経内科)	0名	0名	
野島病院(神経内科)	7名	0名	一脳梗塞での紹介は入れず。
米子医療センター(小児科)	5名(てんかん1名)	1名	神経内科への連携が問題となる。
山陰労災病院(神経内科)	66名	0名	
山陰労災病院(小児科)	2名	0名	
博愛病院(神経内科)	8名	0名	
博愛病院(小児科)	1名	2名	
養和病院(精神科)	2名	1名	
済生会境港総合病院(神経内科)	0名	0名	
鳥取医療センター(神経内科)	3名(県内1名)	0名	
鳥取医療センター(小児科)	5名	0名	外科治療を進めるための紹介が難しい。てんかん外科治療用のパンフレットが欲しい。
鳥取県立中央病院(精神科)			
鳥取赤十字病院(神経内科)	15名	0名	
鳥取赤十字病院(小児科)	3名	0名	
鳥取生協病院(神経内科)	2名	0名	
上田病院	0名	0名	
合計	119名	4名	

3) てんかん患者受け入れ入所施設グループホームやケアハウスでは、てんかんがあると入所できないことがあり、困っていることが判明したので、てんかん患者でも受け入れ可能か調査した。

問 1. てんかんがあっても入所可能か、問 2. 実際に入所しているか、問 3. 近隣に就労事業所があるか、問 4. HPに掲載可能か、を調査し、鳥取県内 243 施設中 33 施設で受け入れ可能であった。

4) 医療者向け研修と啓発普及事業

医療者向け研修会は右の内容で、西部、東部、中部に分けて行った。参加者は合計で 46 ～ 35 名であった。

市民公開講座はなるべく多くが参加できるように、拠点病院のある米子市ではなく、県の中部地区で行った。

また、人権啓発ラジオ（11月22日放送）に出演し、当事業HPにラジオ放送を掲載した。

5) 相談窓口

てんかんコーディネーターは鳥取大学医学部附属病院内に設置されて相談室（脳神経小児科医局内）に在室し、てんかん地域診療連携体制整備事業のHPに相談窓口の情報を掲示した。また、HPに運転適性相談窓口へのリンクを設定し、米子市報、とっとり県政だよりへ、当事業の電話相談に関する広告掲載をした。

精神科病院・知的障害者入所施設勤務経験、神経内科クリニック勤務経験の看護師計2名をコーディネーターとし、ともに非常勤（パートタイム）で、1名は火・金曜日の9時～12時、13時～15時、1名は月・水・木曜日の13時～16時に相談業務を行った。

平成28年5月～平成29年12月相談件数は36件（重複あり）で、患者本人、家族がほとんどだった。

てんかんセンターがない拠点機関における相談事業は、セカンドオピニオン等に関する問い合わせ先として気軽さ、電話相談により適切な検査・治療へ連携できる、てんかん患者にとって身近で利用しやすい相談事業が展開できる、というメリットはあったが、一方的な相談となるため主治医とのトラブルなどに関して

県内入所施設におけるてんかん患者受け入れ対応

No.	施設名	施設種別				その他	問1	問2	問3	問4
		障がい者支援施設	障がい福祉サービス事業所 養護入所	障がい福祉サービス事業所 グループホーム	障がい者入所施設 福祉住居					
1	ワイズコムスタイル	0	0	1	0	0	0	1	1	0
2	三軒湯養徳園	0	0	0	0	0	0	2	0	0
3	グループホーム和良の家	0	0	1	0	0	0	2	0	0
4	和善わい	0	0	0	0	0	0	1	1	2
5	和善人形いせいせいわれもこう	0	1	0	0	0	0	1	1	1
6	和善人形いせいせいわれもこう	0	1	0	0	0	0	1	1	1
7	わかみ本屋	1	0	0	0	0	0	1	1	1
8	わかみ本屋	1	0	1	0	0	0	1	1	1
9	グループホームSOLA	0	0	1	0	0	0	1	1	1
10	和〜んペンションズ	0	0	1	0	0	0	1	1	1
11	われもこの家	0	0	1	0	0	0	1	1	1
12	特別養護老人ホームこまがら	0	0	0	0	0	1	1	1	1
13	障がい者支援施設和善の家	1	0	0	0	0	0	1	1	1
14	和善の特別ケアホーム	0	0	1	0	0	0	2	0	0
15	和善の特別ケアグループホームさきゆう	0	0	1	0	0	0	1	1	1
16	わかみ本屋	0	0	1	0	0	0	1	1	1
17	グループホームあかね	0	0	1	0	0	0	1	1	2
18	ワシユエリー	1	0	0	0	0	0	2	0	0
19	ワシユエリー	1	0	1	0	0	0	2	0	0
20	ワシユエリー	0	0	0	0	0	0	1	1	2
21	わかみかなとホーム	0	0	1	0	0	0	2	0	0
22	わかみかなとホーム	1	0	0	0	0	0	1	1	1
23	鳥取県立養護第二からみ園	1	0	0	0	0	0	1	1	1
24	鳥取県立養護第二からみ園	1	0	0	0	0	0	1	1	1
25	アサヒホームのびととまれ	0	0	1	0	0	0	1	1	1
26	松の取母学園	1	1	0	0	0	0	1	1	2
27	障がい福祉センター理和寮	1	0	0	0	0	0	1	1	1
28	和善の家	0	0	1	0	0	0	1	1	1
29	いせいせいわれも	0	0	1	0	0	0	1	1	1
30	和善の家	0	0	1	0	0	0	1	1	2
31	和善の家	0	0	1	0	0	0	1	1	2
32	和善の家	1	0	0	0	0	0	1	1	1
33	和善の家	0	0	1	0	0	0	1	1	1
34	和善の家	0	0	1	0	0	0	1	1	1
35	グループホームつばき	0	0	1	0	0	0	2	0	0
36	グループホーム	0	0	0	0	0	0	1	1	1
37	グループホームよご大平園	0	0	0	0	0	0	1	2	1
38	和善の家	1	0	0	0	0	0	2	3	0
39	和善の家	0	0	1	0	0	0	2	0	0
40	和善の家	0	0	1	0	0	0	2	0	0
41	グループホームトモト	0	1	0	0	0	0	1	3	1
42	トモトグループホーム	0	0	1	0	0	0	1	1	1

問1: 1:入所可能 問2: 1:現在入所, 2:過去入所, 3:入所なし 問3: 1:近隣に就労事業所あり, 2:なし
問4: 1:HP掲載可, 2:なし
対象:鳥取県内243施設中33施設で受け入れ可能

てんかん治療医療連携研修会

【平成27年度】

1. こどものてんかん: 連携でQOLを挙げる
～てんかん診療拠点機関(てんかんセンター)の概要を含めて～
2. てんかんの脳神経外科治療に関する話題
3. 大人のてんかんに関する話題
～診断・治療から心理社会的支援を含めて～
4. てんかんのある人の生活や心のケア
～てんかん診療拠点機関(てんかんセンター)の概要を含めて～
5. こどものてんかんについて～幼児期・学童期のてんかん～
6. 大人のてんかんの診断と治療

【平成28年度】てんかん診療のスキルアップと地域連携

1. こどものてんかんの診断と治療
2. おとなのてんかんの診断と治療

【平成29年度】二次診療施設を対象に専門性を持たせた内容

1. てんかん治療のポイント
2. てんかん治療に関するアレコレ
3. てんかん外科治療

鳥取県立総合医療センター
てんかん診療連携体制整備事業
いろいろな随かゝりを知ろう
～随かゝり知ると随かゝり～
2016.9.24(土)
参加者:55名

コーディネーターへの相談内容

相談内容(複数選択あり)	件数
セカンドオピニオン	13
公的支援について	7
外来受診	4
てんかんの知識	3
専門医について	2
運転免許について	2
結婚について	1
緊急時対応について	1
薬について	1
かかりつけ医について	1
就労支援	1

は対応が難しい、個人情報をごどこまで聞いて良いか困る、県内の施設情報がなく対応に困る、てんかん患者が適切な治療を受けるネットワークの一つとしての活用が必要、などのデメリットがあった。

3. 成果と課題

てんかんセンターがない拠点病院におけるてんかん診療地域連携体制整備であり、同様の状況の地域における参考になると思われる。

1) 成果

- ・県内のてんかん診療を担う一次・二次の診療機関情報が HP 上に掲載、閲覧可能になった。
- ・県内のてんかん患者受け入れ入所施設の情報が HP 上に掲載、閲覧可能になった。
- ・相談事業が少しずつ浸透した。
- ・行政との連携が深まった。
- ・研修会を通したてんかん診療医等の連携が今後期待される。

2) 課題

- ・てんかん地域診療連携拠点機関にてんかんセンターが開設されていないため、院内外の認知度は高くなく、紹介・逆紹介には限界がある。地域内の連携を高めて、行政を介したネットワーク作りが必要である。
- ・経済的裏付けがないため、コーディネーター（非常勤）の継続雇用の不安がある。
- ・一次・二次診療機関への情報発信及び相互の連携が課題。
- ・相談事業の展開も医療と連結しないメリットとデメリットがある。
- ・事業の継続的な展開（コーディネーターの確保・養成、HP の更新など）に向けた経済的支援が必要である。